

令和5年9月15日

9月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では線状降水帯の発生による記録的大雨や台風8号の通過による降雨の影響で生産現場の活動が一時止まり、県内の原木生産、共販所への入荷は減少している。製材工場の原木在庫が少なくなり、スギ、ヒノキとも引き合いは強くなっている。スギ3m柱は引き合いは強いが、4m中目材は保合。ヒノキ材は3m小径材・柱材ともに保合推移だが、4m中目材は引き合いが強い。全体的に若干値上がり傾向にある。

群馬県では原木供給はタイトであるが、徐々に集荷は容易になる見込み。原木市場では特に3m柱材が相変わらずダブっている。首都圏の製品市場からの受注は回復気味。多少仕事は出始めているが、例年の7割程度である。製材工場の製品在庫は相変わらず多い。製品価格、売れ行きとも依然厳しい状況。

2. 米材

米国オレゴン州南部で山火事は依然発生しているが、沿岸部の山火事警戒レベルは低い水準で伐採に影響を与えていない。カナダでも8月下旬の降雨で山火事警戒水準は緩和され、今後伐採は回復に向かう見込み。米国、カナダとも山火事警戒シーズンも終了していくものと見られる。米マツIS級並の9月積み対日輸出価格は前月据え置きの\$960/千SCRで決着した模様。7月の米国新設住宅着工数は前月比1.3%増の145.2万戸と増加したが、米国製材品市況は余り反応せず軟調な展開になっている。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(9/6)は\$430/M、8月頭に比べ7.1%下落。カナダの山火事の鎮火にはまだ時間を要する見込みで、鉄道の速度制限やハイウェイの通行止めなど輸送面に影響が出ている。

7月原木入荷は188千 m^3 と今年最大で1~7月累計は1,100千 m^3 、前年同期比は25.6%減。出荷は131千 m^3 と入荷を大きく下回り1~7月累計は1,052千 m^3 となり前年同期比26.7%減。在庫は大きく増加し216千 m^3 、在庫率は1.49ヵ月。東京木材埠頭の8月製品入荷は15千 m^3 (前月比25.2%増)、出荷は11千 m^3 (同5.4%増)、在庫は29千 m^3 (同13.1%増)。米材製材最大手の中国木材の鹿島工場で8/26に火災が発生し製材ラインが壊滅。同社は本社呉工場での増産、関連国産材製材工場での米材製材生産で減産を最小限に抑えると発表

している。

3. 南洋材

サラワク州では天候が極めて良好で前月同様、渇水により内陸や高地のキャンプからの水上搬送は止まっている。サラワク域内の原木需要が弱いため輸出圧力がかかり、インド向けは\$20/m³程度の下落になった模様。PNG では天候が良くなり、伐採環境も改善したが、主要市場である中国・ベトナムの不調で取引は今一つの状況である。サバ州の天候は良好で出材も順調。9月予想の原木入荷0千m³、出荷3千m³、在庫9千m³。製材品入荷は25千m³。フリー板市場は依然悪く実需は低い。

4. 北洋材

シベリア産地の主力シッパーは日本・中国市場の不振により製材生産意欲が上がっていない。インフレにより採算割れとなっている。更なる円安で日本側からの希望価格はさらに下がっており、産地側が受けるかどうかは疑問である。野縁製品(30×40)は依然として不振であるが、米材製材最大手の火災の影響からか、栈木や垂木(45mm)等の引き合いが増えている。北洋材製材工場は厳しい状況が続いているが、垂木・羽柄材への一時的なシフトも考えられる。

7月の製品入荷(東京+川崎)は遅れていたコンテナが纏まって入港したため15.6千m³と前月より大幅増となった。出荷は12.7千m³と前月より減少し低調な引き合いが続いている。在庫は纏まった入荷のため44.6千m³に増加。8月在庫は反動もあり、減少が予想される。

5. 合板

合板メーカーは前月に続いて原木の仕入価格を維持した。9月も減産を継続する中で、山側からは合板メーカーに対して原木の仕入数量の引き上げを望む声がある。今後、減産幅が縮小されれば原木在庫の消化も進み、仕入数量も回復に向かうと見込まれる。

7月の国内合板生産量は21.8万m³、うち針葉樹合板は21.4万m³、出荷量は22.3万m³で在庫量は15.5万m³となり、うち構造用合板の在庫は13.2万m³と前年に比べ高水準な状態である。合板メーカーでは価格は9月も横ばいとの声がある一方、値上げを検討する向きもある。住宅需要の低調で需要家が在庫を積み増す気配は見られないが、合板メーカーの生産調整により需給が均衡している見方もある。ただし多少荷動きが戻ると市中の在庫が不足する懸念もある。輸入塗装型枠合板の市中価格は国内在庫の減少や円安による先高

感が強まり値上がり基調にある。7月の合板輸入量は前月比0.7万 m^3 増の15.0万 m^3 となり、中国以外の主要国からの輸入量は増加。インドネシアでは日本や主要マーケットからの引き合いが増え始めた。合板各社の生産量も上向き活気を取り戻してきた。価格は7月頃から下げ止まっているが、反発する状況ではない。マレーシアでは日本からの新規発注が入った模様。今後雨期に入り原木不足による原木価格の上昇も予想される。

6. 構造用集成材

第2・四半期契約分のラミナが順調に入港。8月入荷も通常の5~6割と少ない。在庫量も例年通りに戻りつつある。第3・四半期契約は欧州の休暇の影響によるオフピークで入荷は減少傾向。第2・四半期契約価格は $\text{€}280/\text{m}^3$ 程度で決着し、第3・四半期契約も横ばい。為替は円安傾向であり、輸入コストは上昇の可能性がある。8月時点のラミナ入港価格は46,000円/ m^3 程度で、9月以降も同様の見通し。7月の構造用集成材の入港量は34,366 m^3 、ここ5年間では最低の数量となっている。米材製材大手の火災の影響に注視する必要がある。

7. 木材チップ(東海)

原木は製紙・バイオマス用とも小径材の引合は強いが全体では低調。解体材は高温・多雨等の影響で入荷減少。製紙用は大手製紙会社のN系回収ボイラーの修理が長引き、N系ピンチップの余剰感が強い。燃料用も盆休定期修理、ボード会社の火災等で消費は一時的に減少したが、それ以上に解体系の発生が悪く、例年の余剰感は全く見られない。製紙用は若干の在庫積み増しは可能、燃料用は長期的には不足感がある。

8. 市売問屋

9月に入っても国産材、外材に不足感が見られず、リードする材がない。材木店は当用買いに徹しているため荷動きは悪い。先行きまだ値下がるのか、現状維持になるのか分からないので無理に買いを進めていない状況である。製材工場では虫害材の心配もなくなり、これから挽回との強気の声も聞く。

9. 小売

首都圏の木材・建材の荷動きは不振が続く、先が見えない。新築住宅は集合住宅がまずまずだが、木造を筆頭に実需不足が長引き、盛り上がらない。スギ、ヒノキKD構造材は前月より下落し、とくにスギ材の弱さが続いている。WW集成管柱は輸入が少ないため、国産材を当用買いする傾向が強いが、値上げには至っていない。RW集成平角は競合材の影響により今後価格が下がる見通しである。造作材は非住宅には動きがあるが、建具材の引き合いは減っている。学校など夏場特有の造作仕事も終わり、纏まった引き合いは少ない。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和5年9月15日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	↘	↘	→
	製材品	→	→	→
北洋材	丸太	輸出禁止	*	*
	製材品	→	→	→
南洋材	丸太	↘	↘	→
	製材品	→		

注)北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記の様に示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
↘	↗	↗	→

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材(3m)2等	↗
			スギ中丸太(3.65m)2等	→
			ヒノキ柱材(3m)2等	→
			ヒノキ中丸太(4m)2等	↗
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱(KD)10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→
			米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16'' 13'	→
米マツ平角(KD) 特等 10.5×24.0×4m	→			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	→
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用 メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割(サバ州産)	↗
		東京・問屋店頭 渡し価格	同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	↗
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ(KD)30×40上級	→
		アカマツ(KD)16×40上級	→	
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 3.0×10.5×3m S4S FOHC	↗
		ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗	
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	↗
		スギ 無化粧 JAS 5プライ	→	
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	↗
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→